

差別論から見る「沖縄問題」 —排除のメカニズムに着目して—

専攻：教育内容・方法開発専攻
コース：認識系背系教育コース
学籍：M11139J
名前：仲尾次 弘教

I. 研究の目的

本研究は、差別の中における「排除」を基盤とし、排除のメカニズムについての構造分析を行い、現在の沖縄問題と繋ぎ合わせていくことを目的とする。

第一に、沖縄と日本の文化の比較・歴史的過程・琉球時代の沖縄と日本との関係性を比較対象として分析し、現在の関係性（社会的地位などの観点から）が成り立った経緯を考えていくことを目的とする。

第二に、日本国内の特殊な事情として存在するものなのか、それとも歴史的・世界的に見て、あらゆる時代・世界・地域に存在する「差別」なのか。「差別」という分野から考察を深め、その構造的な分析・研究を経て、人類が克服してきた問題を、国内問題である「沖縄問題」と比較し、将来に向けてのあるべき方向性を見出す契機とする。

第三に、差別の構造を明らかにし、その中でどのような歴史を歩み、現在のような関係性が作り出されていったのかを分析し、その解決策を考えていきたい。

II. 論文構成

序章 研究背景・研究問題

第一節 研究背景

第二節 研究目的

第三節 研究方法

第一章 差別の構造

第一節 現代社会における排除

第二節 日本の中における差別の歴史

第二章 差別の構造分析から見る「沖縄問題」

第一節 南西諸島と日本の関わり合いの始まり

第二節 沖縄戦から本土復帰まで

第三節 本土復帰から現在までの「沖縄問題」

終章 「沖縄問題」を乗り越えて（解決策と課題）

III. 研究の概要

第一章では差別の一つである「排除」のメカニズムについて考えていく。第一節では、個々の人間関係におけるミクロな排除の構造についての比較材料として分析することを目的とする。

る。第二節では、日本で大きな差別問題である部落差別の分析を行う。部落差別における排除の構造と、人間関係における排除の構造を比較することで沖縄の差別問題について言及していく。

第二章では本土と沖縄の関係における差別の構造について考えていく。日本と沖縄（琉球）が関わり始めた時代から現在までの歴史の中から、差別の構造について分析していく。また現在の「沖縄問題」と呼ばれる事象を説明し、その問題がどのように差別と結び付いているかを分析していく。

IV. 研究の成果と課題

1. 研究の成果

第一に、差別とは、主に外見（顔・肌など）の身体的特徴が、自らとは異なる場合に起こりうるものであり、それを違うものと区別し、文化的側面・価値観・社会の発展の度合いなどを比較対象とし、統治者側が区別した相手を、自分たちより劣っていると結論付けた際に起こる現象であることを指摘した。そこから差別の落とし所を排除とし、様々なメカニズムと手法を学ぶことができた。

第二に、日本の中における差別の歴史と排除を対比させることで、ミクロな差別の存在を見ることができた。それらの歴史と「沖縄問題」を比較すること、また沖縄問題がなぜ起こったかという背景も指摘する事ができた。

2. 今後の課題

差別はマイノリティに対して不利益を被ることで起こる現象である。その中から沖縄問題について考えていったが、そうした状況を打開する解決策は見出せなかった。特に大切なのは、他者を受け入れる精神が必要であると考える。認識の違いはあれど、それが沖縄問題を解決する、また差別をなくす大切な精神であると考え。それを見出し、沖縄問題を解決するために、解決策を今後も考えていきたい。

主任指導教員 首藤 明和
指導教員 首藤 明和